

【保護者記入用】

かしのみ学園は、未就学児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぎ、一人ひとりの子どもが快適に生活できることが大切です。幼児の罹患しやすい下記の感染症については、登園のめやすを参考に、かかりつけ医師の診断に従い、受診報告書の提出をお願いします。なお、集団生活に適応できる状態に回復してから登園するよう、ご配慮ください。

＜医師の診断をうけ、保護者が記入する受診報告書が必要な感染症＞

感染症名	おもな症状および経過	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	・39℃前後の高熱、咽頭痛、いちご舌	適切な抗菌薬治療を開始する前と、開始後1日間	抗菌薬内服後24時間～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	・発熱、乾性の激しい咳、咽頭炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と、開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	・軽度の発熱 ・手足や口に小さな水疱ができる	手足や口の中に水疱・潰瘍ができた数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響なく、普通の食事が取れるようになっていること
伝染性紅斑 (りんご病)	・軽い風邪症状 ・両頬、手足に網目状の紅斑	発疹出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ・ロタ等)	・突発の嘔気、嘔吐、下痢	症状のある間と症状消失後1週間	嘔吐・下痢の症状が治まり、普通の食事が取れるようになっていること
ヘルパンギーナ	・突然の高熱、咽頭痛、喉の奥に小さな白い水疱しん	急性期の数日間	発熱、口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普通に食事が取れること
RSウイルス感染症	・発熱、鼻水、咳、喘鳴、呼吸困難	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	・皮膚、粘膜に水疱	水疱を形成している間	すべての発疹がかさぶたになっていること
突発性発しん	・38℃以上の高熱、解熱後に鮮紅色の発しん	発熱中は感染力がある	解熱し機嫌が良く、全身状態が良いこと
とびひ	・びらん、水疱形成、かゆみ	治療後24時間	皮しんが乾燥していること
ヘルペス	・歯肉口内炎 ・歯肉が腫れ、出血、口内痛が強い	水疱を形成している間	発熱がなく、よだれが止まり、普通の食事ができること
アタマジラミ	・小児では、多くが無症状	産卵から最初の若虫がふ化するまでの期間	駆除を開始していること
伝染性軟属腫 (ミズイボ)	・半球状丘しんが数個～数十個集まる	不明	掻きこわし傷から浸出液が出ているときは被覆すること

参考：保育所における感染症対策ガイドライン 2018年改訂版（厚生労働省）

*感染症罹患後の登園には、下記の受診報告書を提出してください。

なお、下記登園のめやすは、お子さんの全身症状が良好であることが基準となります。

<h2 style="margin: 0;">受 診 報 告 書</h2>	
児童発達支援センター かしのみ学園 園長殿	
園児氏名	
【病名： 】と診断されました。	
年 月 日に【医療機関名： 】において、 病状が回復し、集団生活に支障がない状態と診断されましたので登園します。 	
年 月 日	
保護者氏名	
印	
印	